

学校法人武庫川学院
武庫川女子大学短期大学部
機関別評価結果

平成 21 年 3 月 24 日
財団法人短期大学基準協会

武庫川女子大学短期大学部の概要

設置者	学校法人 武庫川学院
理事長名	大河原 量
学長名	糸魚川 直祐
A L O	清水 良次
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	兵庫県西宮市池開町6番46号

設置学科及び入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
日本語文化学科		100
英語コミュニケーション学科		100
幼児教育学科		150
人間関係学科		100
健康・スポーツ学科		80
食生活学科		160
生活造形学科		180
	合計	870

専攻科及び入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育及び入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

武庫川女子大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていることから、平成 21 年 3 月 24 日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成 19 年 7 月 9 日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を満たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次のとおりである。

当短期大学は建学の精神（「立学の精神」）である「建国の理想に遵い、平和的な国家及び社会の形成者として、高い知性と善美な情操と高雅な徳性とを兼ね具えた有為な女性を育成する」及び学院教育綱領を基に、各学科の教育目標が定められている。この教育目標は、今後 5～7 年の間で養成しようとする人材や教育上、力点を置こうとする具体的な目標として五つのキーワードで表し、学生及び教職員に周知を図り教育活動に邁進している。授業評価や学生アンケートの調査結果はウェブサイトにも公開され、学生の意見に耳を傾け、改善に向け真摯に取り組んでいる。

教育課程においては、教養教育を約 300 の共通教育科目（併設四年制大学と合同）で展開し、2 月～3 月の特別学期では 400 を超える科目を開講し、教養、資格、リメディアル教育を展開している。図書館や情報機器などの充実した設備を利用し、学生が主体的に勉学に取り組むことができるようクラス担任をはじめ、数々の学生支援組織によりサポートされている。

教育の実施体制は、教員数、校地・校舎の面積など適切に整備されている。また、学生に対する教育・指導体制、教育・研究上の委員会組織などはよく整備され、研究に対する支援体制も充実しており、研究活動も意欲的に取り組まれている。特に、図書館、情報機器を設置するパソコン教室などの充実は高く評価できる。

入学志願者に対して、印刷物はもちろん、ウェブサイトで様々な情報提供が行われている。合格者、入学手続者にも入学ガイドや学科からのメッセージを配布し、入学までに取り組むべき課題や要望などが伝えられている。入学後には各学生の個人情報や MUSES（武庫川女子大学教育支援システム）によりデータベースとして管理されている。このデータを基に指導・助言が行われている。クラス担任の指導・助言により退学率も低く、就職・進学などの実績もあがっている。

公開講座などの取り組みが充実し、学生の地域ボランティア活動も活発であり、地域と密着した活動が行われている。アメリカに分校を開設し、ここを拠点に現地女子大学生と交流し、アメリカ文化などを学ぶプログラムが用意されると同時に、多くの海外教育機関

との交流も活発である。

管理運営は理事長、学長のリーダーシップの下、適切に運営されており、財務状況は健全で、計画的に学院の充実が図られている。

2. 三つの意見

本協会の評価のねらいは、短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援して、短期大学教育の向上・充実に資することにある。そのために、本協会の評価は、短期大学評価基準に基づく評価、すなわち基準評価的な性格に加え、短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する評価、すなわち達成度評価的な性格を有する。前述の「機関別評価結果」や後述の「領域別評価結果」は短期大学評価基準に従って判定されるが、その判定とは別に、当該短期大学の個性を尊重し、短期大学教育の向上・充実に資する観点から、本協会は以下の見解を持つ。

(1) 特に優れた試みと評価できる事項

高等教育機関として短期大学が有すべき水準に照らしたとき、本協会は、当該短期大学の取り組みのうち、以下に示す事項については優れた成果をあげている試みや特に特長的な試みと考える。

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 今後 5～7 年の間で養成しようとする人材や教育に力点を置こうとする目標を学科などの目標として制定することは、時代と共に教育目標の見直しを行おうとする姿勢の現れである。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ 併設四年制大学と連携して 300 に及ぶ共通教育科目が開講されており、教養教育が充実している。また、特別学期が設置され、学生の多様なニーズにこたえようとしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

○ 2～3 月を特別学期と定め、多数の特別教育科目を開講し、受講生（一般社会人を含む）の勉学意欲にこたえている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

○ 保護者を対象とした地域別教育懇談会に卒業生を招き、在学中、卒業後の活動などについて話をする機会を作っており、当該短期大学の取り組みを広く保護者にも理解してもらう活動を行っている。

○ 在学生満足度アンケート調査を行い、満足度の高い点、低い点ともにウェブサイトにて公開するとともに、浮かびあがった改善・改革すべき事項についても、各組織単位で今後の取り組みとして、その内容をウェブサイトで公開している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生の生活支援の体制が充実している。特に、クラス担任による学生支援と学生相談センターの充実、さらに学生のためのキャンパス・アメニティが充実している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 当該短期大学の管理運営に関し、教授会など、各種委員会に事務職員が参加している。また、法人全体としてのスタッフ・ディベロップメント (SD) 活動が確立されている。

(2) 向上・充実のための課題

本協会は、以下に示す課題などについて改善がされれば、当該短期大学の教育研究活動などの更なる向上・充実が期待できると考える。なお、本欄の記載事項は、各評価領域(合・否)と連動するものではないことにご留意願いたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 今後、FD推進委員会による組織的な教員能力開発への取り組みを更に推進されたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員数について、平成20年5月1日現在で短期大学設置基準上、必要な教授数が2名不足していたが、その後、機関別評価結果の判定までに補充された。今後このようなことのないように努めるとともに、当該短期大学の教育水準の維持・向上を図られることを期待する。
- 英語コミュニケーション学科の入学定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価活動は行われているが、これまで報告書の作成は行われていない。今回の第三者評価を契機に、定期的な報告書の作成が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

以下に示す事項は、問題・課題などが深刻であり、速やかな対応が望まれる。

なし

3. 領域別評価結果

各評価領域の評価結果(合・否)を下表に示す。また、それ以下に、当該評価領域を合又は否と判定するに至った事由を示す。

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

建学の精神及び学院教育綱領は明確に示されており、『キャンパスガイド』、ウェブサイト、各種の印刷物に掲載されるとともに、講義室や研究室、事務室などにも掲示されている。また学長や担任から学生の理解が深まるようオリエンテーションなどの機会に講話が行われている。

建学の精神及び学院教育綱領を基に、各学科の教育目標が定められ、学生や教職員に周知が図られている。この教育目標は今後 5～7 年の間で育成しようとする人材や教育上、力点を置く目標として各学科とも 5 つのキーワードで簡潔に表され、学生や教職員が理解しやすいものとなっている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

併設四年制大学と連携して多彩な共通教育科目を開講し、学科ごとにその専門性を反映した専門科目と取得可能な資格が用意されている。専任教員の配置、単位認定と評価もおおむね適切である。『スチューデントガイド』やシラバスを通して、履修方法や授業内容が学生に周知され、ウェブサイトを利用した情報提供も確立されている。学生による授業アンケートが各科目で実施され、授業終了前にフィードバックするだけでなく、統計処理された結果をウェブサイトで公開し、学生の要望に対処しようとしている。学科単位で非常勤講師懇談会が実施され、教員間の意思疎通が図られている。教育改革推進委員会が設置され、教育課程の見直しと改善が行われている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

教員組織は、短期大学設置基準の規定を充足しており、施設設備はよく整備されている。また、学生に対する教育・指導体制、教育・研究上の委員会組織などはよく整備され、研究に対する支援体制も充実しており、研究活動も意欲的に取り組まれている。特に、図書館、情報機器を設置するパソコン教室などの充実は高く評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

教育目標の達成度と教育効果をあげるための取り組みが積極的かつ十分に行われている。学生の満足度調査を実施し、その報告会を開いている。またそれらの結果はウェブサイトで公開されるとともに、浮びあがった改善・改革すべき事項は、各組織単位で今後の取り組みとして、その内容をウェブサイトで公開している。そのような取り組みの成果は、退学、休学、留年などの学生の少なさにも反映されている。当該短期大学の学生は、おおむね専門性を生かすことのできる職場に進んでいる。また学生の卒業後の評価測定は、当該短期大学卒業生の「在籍調査書」を基に企業などからの意見聴取が実施され、堅実な取り組みがされている。

評価領域Ⅴ 学生支援

建学の精神や教育目的・教育目標、望ましい学生像などは短期大学案内に明確に示され、募集要項には多様な選抜方法がわかりやすく記載されている。広報や入試事務の体制も適切であり、公正で正確な選抜が行われている。入学手続者に対しては様々な問い合わせにこたえられるように体制が整えられている。

入学後は、学生の学習支援のための充実した印刷物が用意され、クラス担任が中心となった相談と支援のための組織が確立している。学友会活動、クラブ活動も盛んで、そのための施設、支援体制も整っている。休息空間、食堂などのキャンパス・アメニティ、奨学金制度も充実している。また学生のメンタルケアのための設備、人材も整っている。

進路に関しては、就職支援のための教職員の体制及び支援室などが完備され、各種講座も用意されている。それらの結果として就職内定率が高い水準に保たれている。

評価領域Ⅵ 研究

外部研究資金の申請数は適度であり、研究のための条件が研究費・設備の両面ともに整っている。研修の機会及び研修時間も確保されている。併設四年制大学と共同発行する紀要に研究成果を発表する機会が用意され、四年制大学に附置された研究所や共同プロジェクトに参画することも可能となっている。学術関連データベースへのアクセスが整備されており、研究活動の活発化を促進している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

社会的活動への取り組みは、行政機関が設置する各種委員会などへの教員の就任及び講演活動や独自活動として各学科や研究所が主催するオープンカレッジ、公開講座などを中心に積極的に行われている。

また学生の社会活動については、ボランティア活動の奨励を重点に展開されている。特に、卒業要件に含めない特別単位を認定して奨励していることについては、積極的な取り組みとして評価できる。

国際交流については、多彩なプログラムが用意され、多種多様な取り組みが展開されており、高く評価できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

学校法人、教授会、評議員会及び事務組織はお互いに補完し、協力・連携して経営管理の効率化・教育活動の円滑化に努めていると判断される。

教授会、評議員会及び人事委員会は機能分担されており、学長のリーダーシップの下に運営され良好である。

SD 活動についても、法人独自の研修制度や大学院派遣を援助する「在職研修制度」など優れた活動が展開されている。

評価領域Ⅸ 財務

財務運営は適切に履行されており、かつ、バランスの取れた健全な財務体質は高く評価できるものである。

管理規程などが整備され、備品・施設設備などが適切に管理されており、危機管理面においても種々多面から配慮されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

平成 3 年に「武庫川女子大学短期大学部自己評価委員会規則」を定め、「自己評価委員会」を設置し、本委員会が中心となり、自己点検・評価活動が行われている。しかしながら、報告書の作成は今回が初めてである。

授業評価アンケートや満足度アンケート調査が行われており、その結果をウェブサイトで公開している。また、平成 16 年 6 月に「授業活性化に関する支援プロジェクト」を組織し、授業の取り組みに関するアンケートを実施し、平成 17 年 6 月には「授業アンケートに関する検討結果」が報告され、改善に努めている。この改善への姿勢は平成 18 年度に設置された「教育改革推進委員会」につながり、さらに教育面での改革・改善が図られている。